

# 国大化学会会誌



三会統合記念号  
横浜応化会・横浜電化材化会・横国化学会

横浜国大工学部化学系同窓会

第1号 平成19年3月





名教自然碑の裏面(部分) 碑文(下)

丈夫自有衝天氣、不向如來行廻行、煙洲鈴木君達治ノ如キハ、ソノ人歟、君初メ京都ノ同志社ニ学ビ更ニ東京帝国大学ニ入り、理科ヲ修ム。大正九年一月十九日政府勅令ヲ以テ横浜高等工業学校ヲ設立スルヤ、君即日選バレテ其校長ニ任ゼラル。創立経営ノ業、専ラ君ノ努力ニ俟ツモノ多シ。然ルニ大正十二年九月一日大震災災ノ起ルヤ、横浜最モ其厄ニ罹リ、全校ヲ擧ゲテ殆ンド焦土ニ帰セシメタリ。

此時ニ当リ、青天霹靂、命令一下、愛知県名古屋市ニ移転セシム。君慨然トシテ起テ勇奮自カラ禁ゼズ、或ハ市ノ有力者ニ懇へ、或ハ当局者ニ抗議シ、奔走周旋寧処スルニ違フラズ。遂ニ現場ニ於テ漸ク該校復興ノ目的ヲ達スルコトヲ得タリ。

君ハ夙ニ皇室中心主義ヲ奉ジ、躬行実践ニ自発ノ力ニ頼ルヲ旨トシ、特ニ学生ヲシテ各自ノ人格ノ尊重スベキヲ自覚セシメ、学生ヲシテ天賦ノ才能ニ応ジテ、其所長ヲ發揮セシムルコトヲ教育ノ主眼トシ、而シテ自ら三無主義ヲ標榜ス。曰ク無試験、曰ク無採点、曰ク無賞罰、君ヲ知ラザル者、皆ナ其言ヲ異トセザルハナシ。

然モ其ノ効果ハ頗ル著明ナルモノアリ。コレ職トシテ君ノ誠意ノ学生ニ感孚スルトコロタラズンバ非ズ。而シテ横浜高等工業学校ガ特殊ノ学風ヲ陶冶シ、我教育界ニ於テ一種ノ異彩ヲ発シ、超然独歩ノ觀ヲ呈スルモノ寔ニ偶然ニアラザルナリ。

此ニ於テ君ハ創立滿十五年ヲ期シ、自ら選抜シタル後任者ヲ推薦シ、悠然トシテ去レリ。君ノ如キハ進退出処實ニ其道ヲ得タルモノト謂フベシ。

比ロ故旧門人碑ヲ校庭ニ建テ、君ノ徳ヲ頌セント欲シ、文ヲ予ニ徵ス。予君ト相得ル浅キニ非ラズ、欣然ソノ知ル所ヲ繕シテ以テ後ノ君子ニ諗ク、然モコレ未ダ君ノ全面ヲ罄スニ足ラザルナリ。

昭和十二年十一月一日

蘇峰 徳富猪一郎 撰  
原三溪 書



名教自然碑の  
 解説プレート(右)  
 登録プレート(下)  
 台座(上)

台座設計:工学研究院 大野敏助教授







2006. 11. 04 三合同総会後の懇親会にて  
 (上) 国大化学会の誕生を祝い、くす玉を割って握手する  
 三會會長および物工化学系科長 (新會長および副會長)  
 (左下) 挨拶する樋口 国大化学会新會長  
 (右下) 乾杯の音頭を取る飯田學長